

2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 16 日作成)

小委員会名	木造建築構法 小委員会		主 査 名：源 愛日児 就任年月：2003 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	計画本委員会		委員長名：服部 岑生 主 査 名：
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>木造建築構法に関する構法計画上の研究課題を推進する。具体的な目標は下記の通り。</p> <p>1) 木造建築における新しい技術や構法開発の情報収集 2) 日本の木造軸組建築の構法史に関する研究 3) 木構造の研究者との連携と、研究の到達点に関する情報交換 4) 在来および伝統木造構法の性能の再評価と性能向上のための技術 5) アジア各地の木造建築構法に関する体系的な情報収集</p> <p>年度計画は各項目逐次進行の予定。</p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：源愛日児(武蔵野美術大学) 幹事：堀江亨(日本大学) 委員：大橋好光(武蔵工業大学) 河合直人(独立行政法人建築研究所) 木村勉(長岡造形大学) 栗田紀之(きがまえ研究室一級建築士事務所) 黒坂貴裕(奈良文化財研究所) 黒田泰介(関東学院大学) 後藤治(工学院大学) 福濱嘉宏(福濱嘉宏建築事務所) 藤田香織(首都大学東京) 前川秀幸(職業能力開発総合大学校) 松留慎一郎(職業能力開発総合大学校) 山畑信博(東北芸術工科大学) 吉田倬郎(工学院大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	伝統木造構法WG：指付け技法の変遷過程と歴史的木造架構の類型化		
2005 年度予算	164,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	9 回(構法関連合同委員会を含む)(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 公開研究会『指付け技法からみた民家の特徴』(川崎市立日本民家園共催) 参加者数約 50 名、資料名：「指物の歴史的意味」「見学会資料」「指物研究会の紹介」
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 研究会に関しては以下のとおりである。研究会1「木三共「上笠神住宅」と新しい木造建築」<中村勉氏>では、自作の解説のみならず近現代の木造建築の潮流に関する世代論が展開され、設置目的1, 2, 3に関する知見が得られた。研究会2「つくばの町家の屋根葺き替え工事ほか」<後藤委員>では、古瓦を利用した屋根葺き替えに関する実践例が紹介されたほか、既存建物の床下改修、熱環境調査の結果が報告され、設置目的1, 4に関する知見が得られた。研究会3(公開研究会)「指付け技法からみた民家の特徴」は、伝統木造構法WGの活動成果の発表であり、設置目的2に関する一定の成果を公表したものである。研究会4「古民家解体古材の流通と活用事例」<黒田委員>においては、設置目的3, 4に関する知見が得られた。</p> <p>2. ワーキンググループ活動：伝統木造構法WGは、成果報告書の刊行(2005年3月)および公開研究会の開催(上記。2005年11月23日)により、当初の目的(設置目的2に該当)をおおむね達成した。今後はデータの整備および開示が残っている。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 研究会については、今後各目標に従い漸次進行させる。</p> <p>2. 伝統木造構法WGについてはデータの開示方法の検討</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。